

医療と介護の空間にベッドで作る“心地よさ” 笑顔でお役に立つメーカー

シーホネンス 株式会社



シーホネンス株式会社は、医療施設・介護施設・在宅介護向けベッドの専門メーカーです。独自の技術開発で使用者に寄り添ったさまざまな工夫を取り入れ、着実に成長してきました。今回は、取締役会長の増本忠次氏と、代表取締役社長の増本龍樹氏に、創業からこれまでの事業発展の経緯と経営にける想いをお伺いしました。

バネ製造から医療用ベッド事業へ

当社の起源は、1937年に増本長三が興した有限会社一富士発条製作所です。その後1957年に株式会社関西製作所を設立し、増本忠が代表取締役に就きました。当時の主力製品はバネで、自転車のサドル、理美容店や劇場などの椅子に使われていました。しかし、競争が激しく収益も不安定であったことから、自社製品を手掛けたと考え大阪府中小企業指導センター（現（公財）大阪産業局）の指導を仰ぎ、事業革新に取り組みました。

バネの製造ノウハウが活かせる分野としてベッドに着目し、より付加価値の高い医療向けベッド事業への参入を決めました。1975年のことです。その時に「シーホネンス」をブランドとして商標登録し、2001年にこれを社名としました。

「シーホネンス」に込めた想い

SEAHONENCE というのは、seahorse（タツノオトシゴ）と honest（オネスト＝誠実さ）を掛け合わせた造語です。尾を海草に巻きつけて、いつも立っているように暮らしているタツノオトシゴに倣って「一日も早い離床（回復・自立）を願い」、誠実・正直に「止むことなく開発・研究を続ける」という意味を込めています。



シーホくん

このシンボルキャラクターは社員がデザインしたもの。カタログ、パンフレットや営業車などに広く使われている。



シホちゃん

独自の戦術で寡占状態の市場に挑む

ベッドは造れても販売は大変でした。当時、医療用ベッドは最大手メーカーが市場の大半を占めており、後発で名前も知られていない当社が入り込む余地は無さそうに見えました。

まずは当社の存在を知ってもらおうと、特注で大型バスを購入し、車内にベッドを並べた、日本初「移動ショールーム」を作りました。



社名と商品の認知度アップのための奇抜な作戦。屋根に社名を大書し病棟から見下ろしても目立つようにした。後方にもドアを設けたオーダーメイド設計。

このバスで全国の病院を訪れ、医師・看護師をはじめ事務の方々にも当社のベッドをアピールしました。もちろん商品も差別化し、大手と同じような規格品では見向きもされませんので、ベッドの幅や高さ、マットレスのクッション性、移動しやすいキャスター、粉体塗装品質といった細かな部分に当社なりの工夫を盛り込むことで、徐々に市場を獲得していきました。

現在でも、些細な困りごとを把握して商品に反映させることを重要視しています。手間はかかりますが、患者さんにも看護師さんにも喜んでいただけるベッドを提供することが当社の使



右) 代表取締役社長 増本 龍樹 氏
左) 取締役会長 増本 忠次 氏

シーホネンス 株式会社

事業内容：医療・介護施設用 電動ベッドの製造、販売
在宅介護用 電動ベッドの製造、販売
移乗用リフトの施工・販売

本 社：大阪市東成区深江北
三丁目 10 番 17 号

創 業：1937年5月

従業員数：160名



会社ホームページへリンクします



命と考え、営業も開発の者も医療現場での日々のコミュニケーションを大切にしています。

介護用ベッド事業への展開

1992年に在宅介護向けベッドの製造販売を開始しました。介護用ベッドは生活の場となりますので、利用者のQOL (Quality of Life) をいかに向上させるかが最重要課題となり、同時に介助のしやすさも求められ、医療用ベッドよりもさらに多様な対応が必要になります。

当社では介護事業者、介護者、利用者の意見を積極的に収集し、先発の大手メーカーにはない特色を打ち出していくことで、お客様の支持を得ることができました。



ヘッドレスト、フットレストなどを備えた介護ベッド「笑」(えみ)シリーズ

介護保険制度が始まった2000年以降、介護ベッドの需要は大きく伸びました。一方で競合も激しくなり、選ばれる商品をいかに開発するかがこれまで以上に重要となりました。

当社は高齢者の誤嚥性肺炎が増加していることに着目し、頭頸部の角度を自在に調整できる電動ヘッドレストを搭載した業界初のベッドを発売しました。誤嚥リスクを低減し就寝中も呼吸しやすい姿勢を維持することができ、視線が前を向くことで会話もしやすくなりました。利用者のことを

第一に考えたこの機能やデザインが評価され、2015年度グッドデザイン賞を受賞しました。

他にも上体を起こしたときに体が下にずれないようにする足底サポート、姿勢を維持しやすいようアームレストを備えるなどの新機軸を導入し、利用者からは「ベッドを変えたら自分で食事ができるようになった」「趣味を楽しめるようになった」「孫と楽しく話せるようになった」など喜びの声が多く寄せられています。



体験型ショールーム「To Do studio」を国内4カ所に設置

「笑顔」を増やすことが当社の社会的責任

当社は「笑顔でお役に立つメーカー」をモットーに、お客様、お取引先、社員、皆を笑顔にする、幸せにすることを常に考えています。

お客様に寄り添った商品の開発はもとより、お取引先は先代から長く続いているご縁を重んじ、社員に向けては年に2回決起大会を開いて、業績の情報共有と懇親を深める場を設け、アットホームな風土づくりを心がけています。

今後、日本は急速に高齢化が進みます。介護が必要になっても、ご本人も家族も介護者も、誰もが笑顔でいられるように、思いやりに満ちた商品開発を続けていきたいと考えています。
一貴重なお話をいただき、ありがとうございました